



生ごみリサイクルの事例解析 ～リサイクルのリーフレットを作成しました～

経営情報研究部・農業環境研究部

神奈川県内のごみの排出量のうち約40%が生ごみです。ストップ地球温暖化対策としてCO₂の排出削減の面から、生ごみの焼却量を削減する対策に関心が集まっています。

神奈川県農業技術センターでは、都市生活や農業生産の中で発生する有機性廃棄物を堆肥化し、農業生産に活用するリサイクルの研究に長年取り組んできました。

そこで、当センターでは生ごみの堆肥化による資源化とリサイクルの参考としていただくため、県内で生ごみリサイクルに取り組んでいる団体を調査し、生ごみの堆肥化処理と活動運営のポイントをとりまとめたリーフレットを作成しました。

このリーフレットでは、県内の3地域で取り組まれている活動の概要を紹介しています。

調査から、リサイクルの仕組みを作るために重要なのは、生ごみ排出者と堆肥利用者の相互理解であることが分かりました。このために各団体は農業者と消費者の交流に取り組んでいました。交流を通じて、消費者は生ごみが資源となって農業生産に活用されていることを実感でき、それがごみ分別の徹底など、リサイクル意識の向上につながっているのです。

さらに分析の結果から、生ごみを農地に利用するまでの段階を4つにわけ、各段階で取り組むべきポイントとそのために必要とされる人材（キーパーソン）についても提案しています。

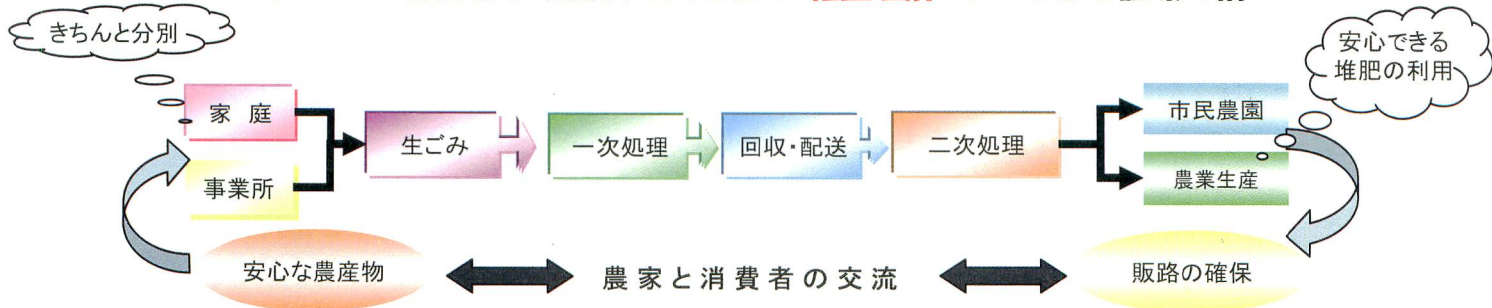
神奈川県では、他県で行われているような大規模な堆肥センターの建設は難しい社会的条件にあります。そのため、リーフレット掲載の事例のような地域レベルでの小さな循環の輪の広がり期待が寄せられます。

このリーフレットは、農業技術センターのホームページ上からPDFファイルでダウンロードできます。地球温暖化防止や安心な農産物の供給、地産地消、農業理解の推進等につながるよう、新たに生ごみのリサイクルを始める際の参考資料としてご活用ください。

<http://www.agri-kanagawa.jp/nosoken/keiei/2009/mottorecycle200907.htm>



生ごみの排出者と堆肥受け入れ者の「相互理解」でつながる循環の輪



※本研究は、新たな農林水産政策を推進する実用化技術開発事業「都市系食品バイオマスの資源化・リサイクル促進戦略」(平成17～20年)で行われたものです。